

# コラム



③

## 吹屋小学校

岡山県の高梁市に吹屋という町があります。高梁駅から車で1時間ほど、曲りくねった坂を何度も登ったり降りたりすると、標高500メートルのカルスト高原に忽然と立派な町並みが現れます。

江戸時代には日本六大銅山といわれた吉岡銅山があり、幕府の直轄地でした。その後、明治の中頃まで副産物のベンガラで栄えました。ベンガラが塗られた商家群が、山の緑のなかに濃紅色の町並みを作っています。国の重要伝統的建造物群保存地区です。その町で、教育と助け合いについて感じることはありません。

最初に、吹屋小学校のこと。現存する日本最古の木造校舎。明治の中頃の建築です。玄関を中心に2つの校舎が対称的に配置され、大鷲が羽を広げているような建物です。子どもを包み込むようにもみえます。経済的繁栄を成し遂げた町が、惜しまず教育投資を行ったであろうことを思わせます。日露戦争前後の繁栄期に、企業も興せば教育に投資もした地域の人々の気概を感じます。残念ながら、生徒数6人しかおらず、来年には廃校になるそうです。100年の時間が町の再生産を難しくしたことに淋しさも感じます。



吹屋では、友子取立免状を見ることもできます。友子とは江戸時代に生まれ、第二次世界大戦前まで存続した鉱山労働者の相互扶助組織。入山するときに、親分・子分の関係を結び、3年3月10日の修行を終えると、友子同盟に取り立てられ、免状が与えられます。鉱山労働者として一人前とされるわけです。

また、友子に取り立てられると、何かの時に奉加帳をまわしてもらえたり、他鉱山に旅したときにも面倒をみてもらえます。独身のまま死亡すると、子分が親分の墓を守ります。事故の多い鉱山労働者の助け合いの仕組みです。

友子制度は熟練工養成の仕組みであり、相互扶助組織ですが、その自発的な仕組みが、鉱山の労働者支配に使われたという指摘もあります。しかし、それが徒弟的に人を育成したのは間違いがありません。

近代的な学校教育に投資した吹屋の商人。徒弟制度で鉱山労働者を育てた友子制度。新しい教育と、伝統的な教育の両方の仕組みが、経済状況の変動によって崩れることを感じさせる吹屋の町でした。

(MBO実践支援センター代表)

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



## 次号予告

編集部へのご質問  
お問い合わせ

TEL: 03-3237-1611

FAX: 0120-703-641

メールアドレス:  
edt-a2@sanro.co.jp

2011年11月5日号 No.2618

【産労総合研究所調査】

管理職・非管理職別にみた

モデル賃金・モデル年間賃金と役職者賃金(2011年)

(付帯調査)

資格等級制度の実態に関する調査

——50社にみる資格等級体系と資格・役職呼称

(解説) 資格等級制度の現状と課題

■徳田 征夫

◆読者の皆様へ

例年、8月初旬に発表される人事院勧告が、東日本大震災等の影響により、本年は9月末に延期されました。本誌では、毎年9月20日号に人事院勧告の概要と標準生計費(全国)を紹介してきましたが、本年は11月20日号の掲載を予定しています。どうぞご了承ください。

●編集部